

東慶寺の北条氏康の書状

石川 秀幸

これまでは「御しんさう」を、「御新造(ごしんぞう)さん」即ち「若奥さん」と解釈してきました。彼女は太平寺の尼さん「静岳尼」です。しかし、北条氏康は「太平寺殿むかい地へ御うつり」と書いたので、盗み取られたのは人間ではなくて、太平寺の聖観音菩薩尊像像と思います。神仏混淆(しんぶつこんこう)の時代に、仏像も神像も同様に考えていたのでは、とすると理解できます。「しかる所ニ又御しんさう ぬすみ取るへきよし」の文言は「しかし、今度は又再び東慶寺の御神像(仏像)を盗む話を聞いている」。と解釈しました。

北条氏康の書状

をそれながら申上候、太平寺殿むかい地へ
御うつり まことにもってふしきなる
御くわたて せひにおよはす候 太平寺御
事ハからんの事 たやし申よりほか
これなく候 しかる所に又 御しんさうをぬすみ
取へきよし よくよくききとどけ申候 玉
なわへうつし申へく 御いけん
あつて 日けんのことく入御申ある辺く候
若 とかくあつてハ その御寺へうらミ入
申へくよし 御ひろう かしく

卯月廿三日(永禄四年1561) うち康
東慶寺

いふ(衣鉢)侍者
(法燈を護る僧)

北条氏康書状の新しい解釈

恐れ乍ら申上ます 太平寺(静岳尼)殿が向い地へ
御移り 誠にもって不思議なる
御企て 是非に及びません 太平寺御
事は お堂を潰して廃寺にするより他
方法がありません しかし又東慶寺の御神像を盗み
取られる噂を聞きました 玉
繩城へ御移しするように御意見
なされて 日限を決めて日限通り入御させなさい
若し 良くない事が出来たなら東慶寺の責任と
なります と御披露 かしく

卯月廿三日 うち康
東慶寺

いふ侍者(法等を護る僧)

(検索=F8北条氏の房総攻撃)